

ホウボウ

生態的特徴等

【生態】

北海道中部以南、東シナ海、黄海、渤海、南シナ海に分布し、水深5～615mの泥、砂まじりの泥、貝殻・泥まじりの砂底域を生息域とする。

茨城県沖での生態情報は極めて少ないが、産卵期は千葉県で春～夏、東シナ海では3～5月、九州近海では12～翌4月とされている。魚類、シャコ類、エビ類を多く捕食し、その他オキアミ類、イカ類、カニ類なども捕食するが、これらの比率は少ない。

九州近海では、1歳で体長13.7cm、2歳で19.8cm、3歳で24.4cm、4歳で28.0cm、5歳で30.3cmとなり、3歳で成熟する。

【漁法と盛期】

茨城県では底曳網での漁獲が最も多いが、固定式刺網（建網）、定置網、曳釣など多様な漁法で漁獲される。周年漁獲されるが、10～3月ごろの漁獲が多い。

【利用】

白身の高級魚で、刺身、塩焼き、煮魚など様々な方法で調理される。

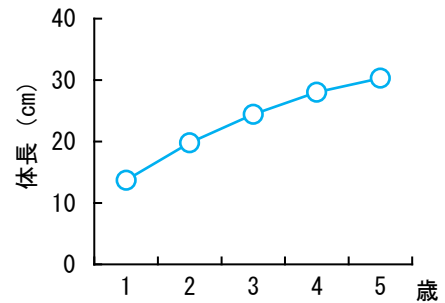


図1 ホウボウの成長
(引用より)

資源水準は高位、動向は増加傾向

（漁獲量）漁獲量は比較的安定している。H19、20年は約80トと多かったが、それ以外の年では20～40ト程度で推移しており、近年ではやや減少傾向である。R7年は22トの漁獲となった（図2）。

（水準と動向）資源水準は、ホウボウの漁獲の7～9割を占める沖合底曳網と小型底曳網（5t以上）の漁獲量から計算したCPUE（kg/隻・日）から判断した。水準は「高位」、動向は直近5年間のCPUEの傾向から「増加」と判断した（図3）。

水準



動向

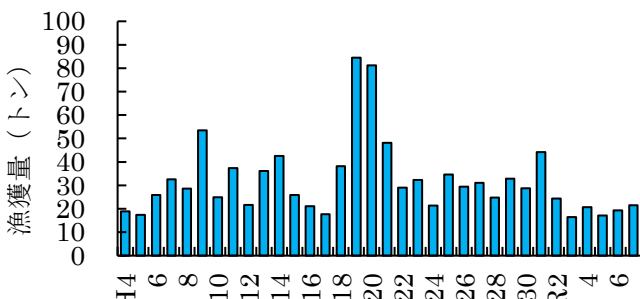


図2 茨城県のホウボウ漁獲量（水試システム、属地）

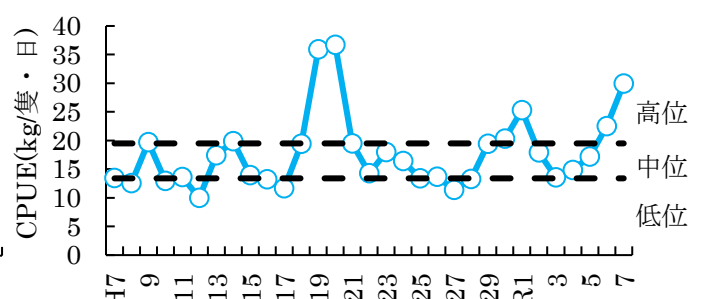


図3 茨城県のホウボウ CPUE
(水試システム、沖底+小底 5t 以上、属地)

【全国の漁獲動向】

- ・全国統計はないが、以西底曳網漁業による漁獲量は減少傾向である。

評価期間：令和7年1月～12月 更新日：令和8年3月11日

引用：水産研究・教育機構水産資源研究所底魚資源部、山口県水産研究センター-外海研究部、福岡県水産海洋技術センター（2023）ホウボウ日本海西・東シナ海。令和5（2023）年度資源評価調査報告書（新規拡大種）、水産庁・水産研究・教育機構、東京 9pp、https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/trends_2023_173.pdf.